

令和五年度 長野県中野西高等学校入学式 式辞

春爛漫、生命の息吹を感じるこの佳き日、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、また保護者の皆様のご列席をいただき、ここに令和五年度長野県中野西高等学校入学式を挙行できますことは誠にありがたく、厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠におめでとうございます。義務教育を終え、晴れの高校入学を迎え、感慨もひとしおかと拝察いたします。私ども教職員一同、精一杯の努力をいたす所存ですので、保護者の皆さまにおかれましても、お子様が力強く未来を切り開いていけるようご理解とご協力を賜りたく存じます。

さて、ただいま入学を許可いたしました中野西高校四十期生、182名の新入生の皆様ご入学おめでとうございます。教職員一同、心より皆さんを歓迎いたします。

本日より皆さんはこの中野西高校で新たな高校生活を始めますが、そのスタートにあたり、皆さんに期待することは、『自分の殻を破れ』ということです。

中学3年間の勝手知ったる生活から抜け出し、高校という新しい場での生活が始まります。知らない環境、初めての人間関係、新たなステージに身を置くことを恐れず、これから始まる高校生活で様々なことに果敢に挑んでいって欲しいと思います。

哲学者のニーチェの言葉に『脱皮できないヘビは滅びる』という言葉があります。ヘビは常に新しい細胞を生み出し、一年に何度か脱皮して、外側の古い外皮を脱ぎ捨てないと大きくなることはできません。生命の危機に直面することもあります。春に蝶々がきれいな羽を広げて飛び立つときも、サナギの固い殻を破り捨てなければなりません。サナギにとって、脱皮は命がけですが、それを乗り越えればより強く美しい蝶としての姿に変容できるのです。脱皮することは成長の証であり、生きることそのものなのです。

人間の精神も同様で、成長するためには何度も脱皮すること、自分の殻を破ることが必要です。自分の考えに凝り固まることなく、新しいものを得て、柔軟にアップデートさせていくこと、自分を磨き続けることがあなたの成長となります。ただ人間は、自分ひとりでは成長することはできません。他者がいるからこそ、自分が見えるのです。自分の強みを大事にしながらも、新しい環境で、新しい仲間とともに、多様な価値観に自分を開き、自分の殻を破り、可能性を広げていきましょう。高校三年間での素晴らしい成長を期待しています。

さて、本校は皆さんもご存じのとおりユネスコスクールとして、ユネスコの理念を実現するためにESD（持続可能な開発のための教育）の拠点校として、環境保全や地域連携、異文化理解を中心に活動しています。皆さんにはこのユネスコスクールの

一員として心に留めておいて欲しいことを述べます。

ユネスコ憲章の前文に次のようなフレーズがあります。

『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなくてはならない』というものです。

世界には戦争、貧困、人権、環境、開発といった様々な問題があります。特に現在起きている軍事侵攻とその悲惨な状況は、私たちの生活にも影を落としています。私たちは、世界や社会の諸問題を自分ごととしてしっかり考え、私たちが主役で生きる時代が、そしてその後続く時代が幸せであるために、自ら学ぶ努力をし続けなければなりません。

高校での学びはこれまでとは本質的に大きく異なります。それは、一言で言うならば、「与えられたことを学ぶ」ことから、「自ら進んで学ぶ」ことへの変化です。何が私たちにとって幸せなのか、様々な場面で問いを投げかけながら、自らの意思で、前向きに学んでいって欲しいと思います。

また、皆が平和で共存していくためには、多様性を受け入れる寛容さが必要です。同じ社会に生きる仲間を簡単にSNS等で傷つけたり、排除してしまう社会になってしまったことは大変憂慮すべきことです。違う考えを持った人たちがひとつの世界、ひとつの空間で暮らすためには、お互い完全に理解することは不可能でも、傷ついたり、命を落とすことのないよう、知恵を互いに持たなければなりません。

そのためには周りの人とのコミュニケーションを大事にすること。直接顔を合わせ、優しい笑顔と思いやりのある言葉で人に接することが人間関係構築の大切な第一歩です。明るい挨拶と言葉がけから、明るい心と気持ちの良い社会が生まれます。

この中野西高校で、さまざまな出会いや活動を通して、一人ひとりが、授かったかけがえのない命と存在、そして新たな個性を磨き上げる努力をして欲しいと願っています。皆さんが、心身ともに健康で、これから始まる高校生活が希望にあふれ、日々充実した高校生活を送ることを、心より期待して式辞といたします。

令和五年四月六日

長野県中野西高等学校長 弓削 弥生